

(1) 球麻痺から発症した筋萎縮性側索硬化症で歩行が可能な患者への対応で正しいのはどれか。(50a-27)

正解 1

1. 胸郭のストレッチを指導する

○: 本症例では歩行が可能なため重症度は低いと考えられるが、今後予測される呼吸機能障害に対して、胸郭の可動域増大などを目的に行うべきである。

2. 呼吸機能評価を1年に1回行う

×: より頻繁に呼吸機能評価を実施すべきである

3. 栄養指導は誤嚥を認めてから行う

×: 誤嚥を認める以前から栄養指導を行うべき。誤嚥性肺炎などを予防するため、摂食指導も早期から行う

4. 早期からプラスチック短下肢装具を導入する

×: 歩行が可能な状態であるため、残存機能を活用していくためにSLBは使用すべきではない

5. 鉄アレイを用いた上肢筋力トレーニングを指導する

×: 負荷が大きすぎる

(2) 55歳の男性. 筋萎縮性側索硬化症. 1年前から通勤時に右足がつまずくようになった. 最近は意識して膝を上にあげて歩行している. 腰椎MRIでは病的初見はなく, 針筋電図初見では両側の前脛骨筋に右優位の神経原性変化を認めた. 適切な対応はどれか. (49p-11)

正解 5

1. 座位時は足を挙上しておく

×: 右足につまずきが見られるため, 不適切

2. 移動時に車椅子を利用する

×: 日常生活の自立が可能な時期であり, 機能維持のために可能な範囲で自力で歩行すべき

3. 立ち上がり運動を繰り返す

×: ALS患者には過負荷となりやすい

4. 前脛骨筋に治療的電気刺激を行う

×: LS患者は上位および下位運動ニューロンに障害があるため不適切

5. 右プラスチック短下肢装具を装着する

○: 右足につまずきが見られることや右前脛骨筋の神経原性変化が認められることから, 足関節背屈の補助を行う必要があり, 右プラスチック短下肢装具の装着によってつまずきを防止する

(3)筋萎縮性側索硬化症への対処で誤っているのはどれか。(42-68)

正解 3

この問題は反射で解けなければいけない。四大陰性症状は必ず覚えること

1. 起居動作の維持

×: 運動障害が見られるため適切

2. 呼吸能力の維持

×: 運動障害による呼吸障害が見られるため適切

3. 自己導尿の確率

○: 自律神経障害がない(四大陰性症状のひとつ)ALSでは, 自己導尿の確立は必要ないため誤っている。

4. 関節拘縮の予防

×: 運動障害が見られるため適切

5. 移動手段の確保

×: 運動障害が見られるため適切